{ August }

私は自分が感じたことを自分の言葉で伝えたいので今回は日本語でレポートを書かせてもらいます。私はこの 1 週間と少しでいくら伝えても伝えきれないほど多くのことを学び、考えました。英語という教科に見方も大きく変わりました。英語というものを言葉として認識し、心から英語を話せるようになりたいと思うようになりました。日本語でこの感謝の気持ちを伝えれたらどんなにいいだろう、友達と気持ちをもっと共有し合えたらどんなにいいだろうと毎日思います。英語の重要性を肌で感じた一方で、言葉よりももっと大切なものにも気づきました。私は、アメリカはもちろん、メキシコ、コンゴ、トルコ、などなど多くの国の友達ができました。彼らの中には英語が話せない人もいます。英語が話せないということは私と会話が成り立ちません。いくらわからないんだと伝えても彼らは毎日ニコニコして私に話しかけます。最初は何もわかりませんでしたが、細かく行動を見たり、一緒に多くの時間を過ごすうちに何を伝えたいのかわかるようになってきました。今、彼らは紛れもなく私の大切な友達です。ありきたりなことだと思いますが、伝えようとすること、知ろうとすることが 1 番大切だと思いました。そして私は文化の違いも人種の違いも言葉の違いも食べ物の違いも自分でも驚くほどすぐに受け入れることができました。肌の色、髪の色、体型、身長、性格、などが違うのはもちろん、みんなが本当に個性的でカラフルです。

Art のクラスで音楽にノリながらぐちゃぐちゃに絵を描いたり、体育のクラスで友達とアメリカンフットボールをしたり、友達とランチを食べながら笑い合う時間が本当に楽しいです。

私のホストファミリーは私を本当に大切にしてくれています。毎日たくさんの時間を一緒に過ごし、たくさん会話をします。私は意思表示が苦手だと伝えたので、これやってみる？これ食べたい？とイエスかノーで答えられる質問をしてくれます。私が何かに挑戦したいと伝えるととても喜んで応援してくれるので私は恐れずにいろいろなことに挑戦することができます。親戚のみなさんも学校のサポートをしてくれたり、英語の勉強のために一緒にボードゲームをしてくれます。心から可愛いと思っている兄妹の 2 人との時間も大切にしていきたいです。
ホストファミリーは、あなたはとても勇気がある、自信を持ってといつも私を励まし、たくさんの幸せをくれます。grandma は 30 年前に日本でも教師をしていて、その時にすごく良くしてくれた日本人への感謝をあなたに返したいです。と言ってくれました。30 年前の誰かの優しさがまだここで生きている、そういう風に繋がっている輪に入れることを嬉しく思っています。私ももらった幸せをいつか必ず返していきたいです。

去年このプログラムで日本に来ていたエイジアとも再会し、エイジアの家に来ている留学生も一緒にコーンフェスティバルに連れて行ってくれました。エイジアの家族と私のホストファミリーも仲良くなったので、私はこれからもエイジアとの時間を存分に楽しむことができそうです。もっともっと学校でのこと、家族のこと、友達のことをレポートを通して伝えて行きたいですがとても書ききれません、、私はここに来れて本当に幸せです。家族、友達、姉妹都市委員会の方々、サポートしてくれた全ての人に感謝しています。ありがとうございます。